
Act

あると

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Act

【コード】

N1228P

【作者名】

あると

【あらすじ】

ある愛の形です。

某所の三題噺を即興で。

「行かないで」

雨に濡れ、泥にまみれ、彼女は声を絞り出した。

「駄目だ」

彼は冷たく言い捨てた。

「俺たちは兄妹だ。だから、一緒になることはできない」

厳しい面で妹を見下ろしていた。突っぱねてはいたが、悲痛な思いでいることもわかった。彼の手が握りしめた腕から、血が滲んでいた。

「関係ないわ！ 私は兄さんといたい。お嫁になんて行かない」

「あいつと結婚することが、お前の幸せなんだ。家庭を築き、子を産み、育て、生きる」

男が踵を返した。

「勝手に決めないで。私の幸せは、兄さんと結ばれることよ。いくらあの人がいい人でも、イヤなの！」

「馬鹿を言うな」

道理の通じない妹に、怒りがわいた。

振り向くと、女の目と出会った。

「あなたじゃないと、駄目なのよ」

雨が顔の汚れを洗い流す。美しい顔だった。見慣れた容姿が、見慣れない女のものだった。胸の奥がどうしようもなく疼いた。

「双子なんて。こんな星のもとに生まれなければよかったのに」

彼は、気づかないようにしていたことに、気づかされた。

「……その星の下でなければ、俺たちは出会わなかった」

いつしか、彼の目からも涙が落ちていた。

二人の視線が絡み合う。

「行こうか」

「ええ」

どこに、とは言わない。

雨で増水した大河は、激しい音を立てていた。

「カット！」

監督の声に歓声と指笛が巻き起こった。

「素晴らしい。声の震え、目の動き、完璧に理想どおりだ。君たちは天才だよ」

手放しの絶賛に、二人の役者は笑顔を返した。

「さすが双子の俳優です。胸が熱くなりました」

スポンサーの社長が拍手をしていた。

「禁断の愛って、ステキ」

衣装担当の女 男性は涙を流していた。

「さあさあ、着替えましょ。風邪をひいちゃうわ」

二人のマナージャーがタオルを差し出した。

「ああ」

「あとでね」

兄妹はお互いに微笑み、控え室に戻っていった。

彼らの目と目が複雑な色をしていたことに、気づく者はいなかった。

完成した映画の発表会に、二人の姿はなかった。

将来を嘱望された男優と女優は、幻のように消えてしまったのだ。

映画界の損失だと、後の人は言う。また別の人は、あの映画以外では鳴かず飛ばさずだっただろうとも言った。

「なんと言われようと構わないさ。ひとつの形を見せつけてやったんだ」

「偏見なんてなくなってしまえばいいわ」

静かな浜辺で、二人は重なり合った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1228p/>

Act

2010年11月25日02時23分発行